

World News

ロケット関連ニュース

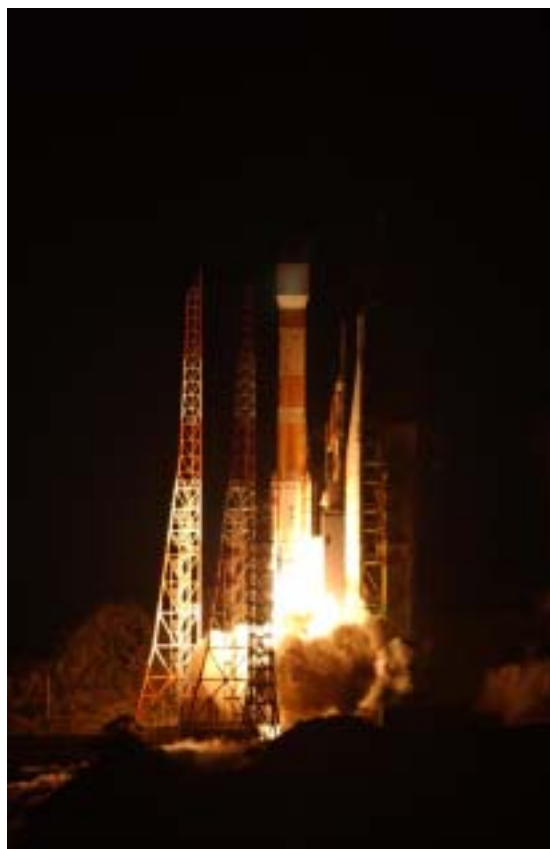
1. H-IIA ロケット7号機打上げ成功

おめでとう

宇宙航空研究開発機構（JAXA）及び株式会社ロケットシステムは、H-IIA ロケット7号機による運輸多目的衛星新1（MTSAT-1R）の打上げに成功した。H-IIA ロケット7号機は平成17年2月26日18時25分、種子島宇宙センターから、発射方位角102度で打上げられ、ロケットは正常に飛行し、発射後約40分02秒後にMTSAT-1Rを分離し所定の軌道に投入することに成功した。衛星は、「ひまわり6号」と名付けられた。

打上げ後の記者会見でJAXA立川敬二理事長は「国民の皆様をはじめ、多くの方々のご期待を寄せてくださる中、無事成功することができて何よりと思っております。打上げにあたりましては、政府機関の方々からご指導をいただき、また、漁業関係者の皆様のおかげで今回の打上げ期間の設定ができました。そして、実行部隊としてJAXAのほか、三菱重工をはじめとする関係機関、関係企業、およびロケットシステムの皆様方など的一致協力した成果の賜物がこのたびの成功であると考えております。心よりお礼申し上げます。前回の打上げ失敗後、事故解析と総点検に1年3カ月もの時間をかけて、私どもとしましては、万全を期して今回の打上げに臨みました。当初の打上げ予定日は延期になり、今日も打上げ予定時刻の1時間前になって若干の問題で発射時刻が遅れましたが、職員一同の一丸となった努力が実を結んだものと思います。これからもこの力を発揮していきたいと考えているところです。

これでH-IIA ロケットは、7回の打上げを行って失敗が1回ということになりました。現在の成功率は85.7%ですが、20回の打上げで失敗が1回であれば、成功率は95%です。今後、打上げの回数が増えれば、信頼性もさらに高まり、コストダウンも図ることができます。そうなればH-IIA ロケットは、国際競争力のある、強固なロケットとして成長することでしょう。今日をそのための第一歩として、これまで以上に身を引き締めて取り組んでいく所存です。皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。」とのコメントを発表した。



H-IIA ロケット7号機 打上げ写真
- JAXA 2005.2.26 プレスリリース 記事 -

今後のJAXA打上げ計画は次の表に示される
りである。

年度	打上げロケット	搭載衛星/ミッション
平成 17 年度	H-IIA ロケット	<u>ALOS (陸域観測技術衛星)</u>
	H-IIA ロケット	MTSAT-2 (通信多目的衛星2号機)
	H-IIA ロケット	次期青報収集衛星1 1号機
	M-V ロケット	<u>ASTRO-EII (天文衛星)</u>
	M-V ロケット	<u>ASTRO-F (赤外線天文衛星)</u>
	アリアンV	<u>LDREX-2 (大型展開アンテナ小型・部分モデル2)</u>
	ドニエプル	<u>OICEIS (光衛星間通信誘導衛星)</u>
	ドニエプル	<u>INDEX (小型衛星)</u>
平成 18 年度	H-IIA ロケット	<u>ETS-VIII (技術試験衛星 VIII 型)</u>
	H-IIA ロケット	<u>SELENE (月周回衛星)</u>
	H-IIA ロケット	次期青報収集衛星1 2号機
	M-V ロケット	<u>SOLAR-B (太陽観測衛星)</u>
	GX ロケット	<u>LNG 推進系飛行実証1</u>
平成 19 年度	H-IIA ロケット	<u>WINDS (超高速インターネット衛星)</u>
	H-IIA ロケット	<u>GOSAT (温室効果ガス観測技術衛星)</u>
	H-IIA ロケット	H-IIA ロケット能力向上型
	スペースシャトル	<u>JEM モジュール「きぼう」</u>
	GX ロケット	<u>LNG 推進系飛行実証2</u>
平成20年度 以降		<u>準天頂衛星1</u>
		<u>HIV (宇宙ステーション補給機) 技術実証機</u>
		<u>PLANET-C (金星探査衛星)</u>
		<u>生命科学実験施設 (セントリフュージ)</u>
		<u>GPM/DPR (全球降雨観測二周波降水レーダ)</u>
		<u>準天頂衛星2</u>
		<u>準天頂衛星3</u>
	<u>BepiColombo (国際水星探査計画)</u>	

2. Arianespace社はAMC-18衛星の打上げ計画を発表した

AMC-18衛星はSES GLOBALグループによってEuropean launch service会社に委託された25番目の衛星となる事を発表した。AMC-18衛星の打上げは、GuianaスペースセンターからAriane 5で2006の下期に打上げを計画していると発表した。AMC-18衛星はLockheed Martin Commercial Space Systems(LMCSS)により製造される。衛星はA2100衛星バスで構成され、24本のC-Bandアクティブトランスポンダを搭載している。衛星の打上げ時重量は約2300kgである。



A2100 衛星 LMCSS 社提供

AMC-18はSES AMERICOMにより運用され、衛星運用寿命は15年、西経105度の軌道のポジションから米国内のケーブル・テレビ配信サービスを提供する予定である

- Arianespace 2005.3.23 プレスリリース 記事 -

衛星関連ニュース

1. Lockheed マーティンは、SES 社から A2100 小型製造契約を受注したことを発表した

Lockheed Martin Commercial Space Systems(LMCSS)社はSatellite 2005 国際会議の席上でSES GLOBAL社からSESグループの一員であるSES AMERICOMによって運用さ

れるA2100静止衛星の製造契約を締結したことを発表した。AMC-18と呼ばれるこの衛星は、西経105度に打上げられ、北米でのケーブルTV会社のプログラム配信に提供される予定である。契約条件については開示されていない。A2100衛星BUSで製造されるAMC-18衛星はLMCSSの11番目の衛星で、発電能力1-4kWの小型の部類に属する衛星である。AMC-18衛星打上げ計画は、合衆国でのSES AMERICOMがサービスするAMC-10、11でのHDTVプログラムの需要増大への対応の為との事である。AMC-18は、24本の36MHz C-BandでケーブルTVサービスを展開する。サービス範囲は米国50州とカリブ海諸国である。設計寿命は15年以上で、打上げは2006年下期を予定している。衛星は、SES AMERICOMの衛星群の中で運用される。AMC-18は、SES AMERICOMのためにLockheed マーティンにより製造され、組込まれている14番目のA2100シリーズ衛星となる。2004年に、Lockheed マーティンはSES AMERICOMのための次の4つの衛星を納入した：

2004年2月 AMC-10；

2004年5月 AMC-11；

2004年8月 AMC-15；

2004年12月 AMC-16

LMCSS A2100静止衛星シリーズは、Ku-バンド放送サービス、Ka-バンド広帯域放送サービス、及びCバンド直接同報通信サービス等多種多様な通信ニーズを満たすようにデザインされている。運用中の衛星では、UHFおよびLバンドおよびS-バンドペイロードを使つてのサービスも行われている。

-LMCSS社 2005.3.23 プレスリリース 記事-

2. Space SYSTEMS/LORAL(SS/L)社はPANAMSAT社のGALAXY 18衛星を受注したことを発表した。

SS/L社はPanAmSat社のGalaxy18衛星を受注したと発表した。衛星は固定衛星通信サービスに使用される予定で、衛星設計寿命は15年、EOL時の発電能力は10キロワットである。衛星のハイブリッド通信ペイロードは、24本の高出力Ku-バンドおよび24本のCバンドトランスポンダを含む48本の運用トランスポンダを搭載している。



GALAXY 衛星 SS/L社提供

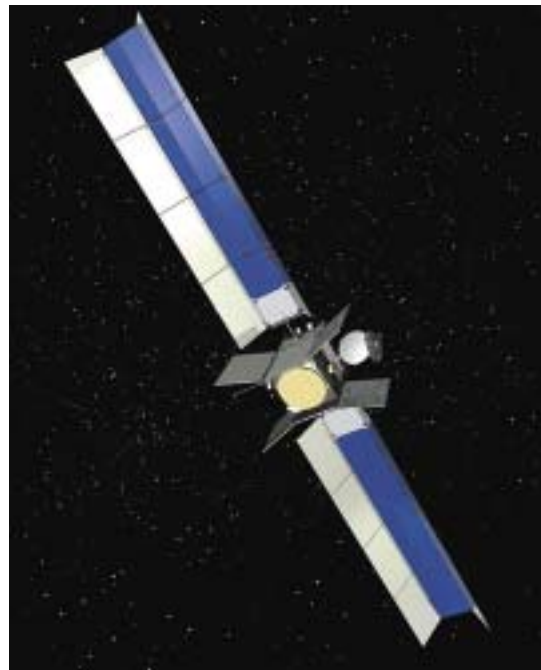
衛星は、PanAmSat社の所有する西経123度の軌道位置から運用される予定である。契約には標準の破産法裁判所の承認が条件となっている。衛星は2007年に納入され、GALAXY18は、米国全土、アラスカ、ハワイ及びプエルトリコに加えてカナダ、メキシコをサービス範囲とする。この衛星はSS/LによってPanAmSatのために製造された5番目の衛星となる。GALAXY16は2006年納入に向けてSS/Lの衛星製造工場では製造中である。衛星はSS/Lの実績ある1300シリーズBUSで製造される。現在48機のSS/L 1300BUS衛星が軌道上で重要な

通信サービスに運用されている。PanAmSat社は現在23の衛星群を所有し、その運用を通して、ビデオ、同報、ネットワーク分配、および配達サービスを行っているグローバルな衛星プロバイダーである。同社の衛星サービス合計で、世界の人口の98パーセント以上に通信放送サービスを提供している。

-SS/L社 2005.2.23 プレスリリース 記事-

3. Boeing社は次世代気象衛星GOES-Nの納入準備を始めた。

Boeing社で米国海洋大気庁(NOAA)及び米国航空宇宙局(NASA)の為に製造されている3台の次世代気象衛星の最初となるGOES-N衛星を、2005年5月に打上げの為に、フロリダのケネディ宇宙センターに向けて納入の準備に入ったと発表した。



GOES-N 衛星 Boeing社提供

GOES-Nは、従来の気象衛星に比べて、より正確な予報、およびよりたくさんの嵐、さらにその他の天候現象の追跡を行い、より

早く、より精密な警報を国民に提供する事が期待されている。

-Boeing社 2005.3.9 プレリリース記事-

4. Loral社は再編の合意計画を提出した。

Loral社は2005年3月22日、米国破産法廷に対し、再編計画の修正提案を提出した。昨年、2004年12月5日に前もって提出された再編計画の条項を改訂する計画は、会社、債権者委員会と、SS/Lの特別買掛金委員会の間で、再編に関する合意計画の要素を反映した内容である。内容は米国破産法廷の確認が条件となっている。計画は次のような内容となっている：

- ・ Loralの2つのビジネス、衛星製造（新SS/L）と衛星サービス（新Skynet）は、再編されたLoralの別々な子会社としてそのまま存続する。
- ・ 新SS/Lは負債免除で、契約に基づくすべての衛星の完成と新規受注を続ける。
- ・ 新Skynetは、現在および見込みのある顧客へのトランスポンダリース、ネットワーク、および企業へのサービスを提供し続ける。
- ・ 新Loralは現在の管理の株式会社として存続し、主要な証券取引所に上場される事を捜す。
- ・ SS/LとLoral SpaceComに対する許諾された要求の該当者は、請願日付から計画の発効期日までに利息を含む現金の全額が支払われる。
- ・ Loral Orionの一般債権者は、約80パーセントの新規Loral普通株、および新規Skynetにより発行される2億ドルの優先株のそれらに比例したシェアを受け取る。

・ これらの債権者は、また、新規Skynetの優先株式の1億2000万ドルの夫々の比例配分を購入する権利を提供される。

・ Loral公債券の所有者および一定の他の一般債権者は、新規Loralの普通株の約20パーセントを受け取る。

・ Loralの既存の共通と優先株はキャンセルされて、分配は無し。

計画の実施、要求の取り扱い、および公平性には、破産法廷による最終の文書化と確認が必要であるとされている。

-Loral社 2005.3.22 プレリリース記事-